２０２７年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題　法律科目試験

（刑事訴訟法）

第１問　（配点：３５点）

次の（設例）を読んで、「２」及び「３」記載の警察官による甲の取調べの適法性について論じなさい。

（設例）

１　Ｘ県警本部Ｘ警察署司法警察員Ｋ１は、令和７年１月１６日の夜、同県内のマンションに住むＶが殺害され金品が奪われるとの強盗殺人事件が発生し、聞き込み等の捜査を開始したところ、犯行時刻頃に同マンションから逃走する不審人物がＶの知人甲に似ているとの目撃情報を得た。決め手となる証拠はなかったので、Ｋ１は、同年２月３日、証拠を得るべく甲を取り調べたいと考え、隣接のＹ県に住む甲に電話をかけ、前記目撃情報があることを伝え被疑者取調べを行いたい旨告げたところ、甲から「分かりました。Ｖさんは長年の知人ですので、取調べに協力します。」との返事を得た。

２　Ｋ１は、翌４日、部下警察官Ｋ２を甲方に派遣し、警察車両に甲を乗せてＸ警察署まで出頭させ、午前１０時頃から同日午後８時頃まで取調室で甲の取調べを行った。その結果、事件の３日前に甲Ｖ間に仕事上のトラブルで口論があったことが判明したので、Ｋ１は、翌日も取調べを行いたい旨述べ、甲は「仕方ないですね。」と答えた。Ｋ２は、甲を自宅に警察車両で送り届け、翌５日、前同様に同車両に甲を乗せてＸ警察署に出頭させ、Ｋ１は、午前１０時頃から同日午後８時頃まで取調室で甲の取調べを行った。

３　その取調べの結果、事件翌日に甲が被害品の腕時計を入質した事実が判明し、Ｋ１は、翌日も取り調べたい旨述べたところ、甲が「仕事を３日も休むのは難しい。」と渋った。しかし、Ｋ１が、甲の勤務先上司に電話し甲の欠勤の了解を取り付けたため、甲も仕方なく取調べに応じることとした。Ｋ１は、甲の逃走・自殺をおそれ、甲の了解の下、付近のホテルに甲を警察車両で送り警察費用で宿泊させ、警察官２名を派遣し甲の客室前の廊下で監視させた。翌６日もＫ２に前同様に車両で甲の送迎をさせた上、Ｋ１は、午前９時頃から同日午後９時頃まで取調室で甲の取調べを行った。Ｋ１は、同日午後７時頃、甲が疲労のあまり沈黙しがちとなったことに気付いたが、なお自白を得るべく取調べを続行した。

４　翌７日の取調べで、甲が、Ｖを殺害した旨の上申書を作成したので、Ｋ１は、逮捕状の発付を得て逮捕状により甲を逮捕した。以上の甲の取調べにおいて、Ｋ１らは、取調べの冒頭に黙秘権の告知を行っており、また、甲が取調べを拒む旨の言葉を述べたこともＫ１らが甲の身体に有形力を行使したことも、いずれもなく、Ｋ１らは、昼

食及び夕食を摂るための各３０分の休憩並びに甲の要望に応じたトイレ休憩を設けていた。

第２問　（配点：１５点）

刑事訴訟法３２８条により許容される証拠について、その意義及び関連判例に言及しつつ論じなさい。